

1. 金融の自由化に関する参考文献

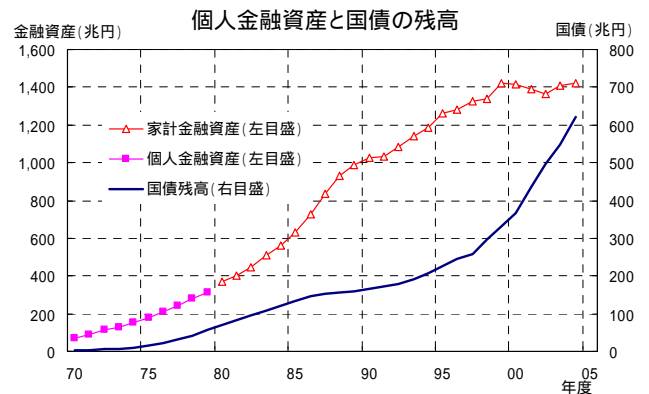
- ・「わが国の金融制度」日本銀行金融研究所、1995年

2. 経済的な背景：石油ショック後の中程度の成長持続

- ・成長率の鈍化 資金需要の変化（企業部門の資金需要が低下）
- ・2つの石油危機を乗り越えたとの自信 規制緩和を求める動き

3. 国債の大量発行

- ・民間の資金需要低下 + 高水準の貯蓄の持続
財政支出の拡大でバランスを回復
- ・安定的な国債消化を求める動き + 流通市場の整備
金利メカニズムの活用を求める機運
- ・**預金との競合可能性**（残存期間が短くなれば預金と競合） 預金金利規制の維持が困難化
- ・「国債窓口販売」（**銀行の窓口での国債の販売**）を開始



4. 国際化の進展

- ・日本企業の海外での成功 有力企業は海外で低利の資金調達が可能に（国内での銀行借入を抑制） 国内金融業の競争力強化を求める動き
- ・**金融業務の国際化**（銀行の海外進出） 国内の**各種規制を海外で回避**（ユーロ円等）
- ・経済小国ではなくなった日本をみる海外の目の変化
- ・「外国為替及び貿易管理法」の改正（**資本取引自由化の動き**）

5. 預金金利の自由化

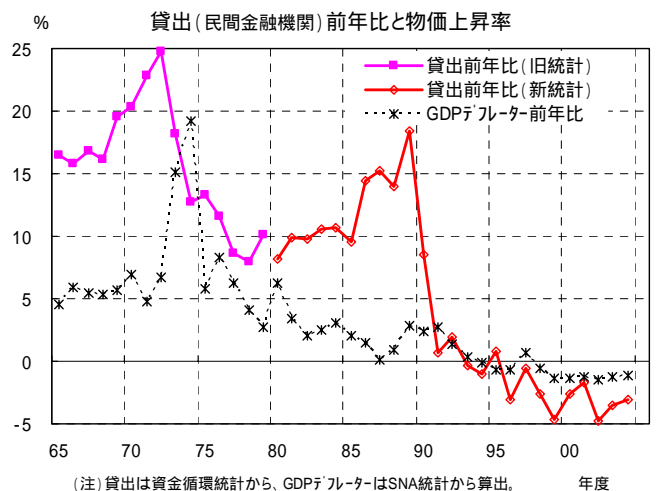
- ・C D（譲渡性預金、金利は自由）など市場金利連動商品の登場
- ・**自由金利預金**は「臨時金利調整法」の対象外という扱い（**規制金利預金**と並存）
- ・大口の定期性預金から**段階的に自由化**（自由金利商品の「最低預入額」を順次引下げ）
- ・**銀行の収益基盤が掘り崩される一因**

6. ボリューム重視の金融機関経営

- ・貸出・預金・収益を巡る業態内での競争意識
- ・**量の拡大が収益拡大**につながった**成功体験**
- ・日本銀行の**窓口規制**の廃止

7. 銀行の審査機能の弱体化

- ・収益拡大競争の中、審査部門をお荷物視
- ・審査部門を融資部門に吸収する動き（プレーキとアクセルを同一部門が管理）
- ・**土地神話に対する過信・安住** **審査ノウハウの低下**、担保掛目の緩和の動き



11月26日(土)15～17時に国際経済学科開設記念講演会「進展する経済のグローバル化とアジア」(B館101教室)が開催されます。講演者は松永明氏(経済産業省課長)と川上哲郎氏(元の関経連会長)です。